

## 1 4 . 中部横断自動車道の早期全線整備について

北信越部会提出  
説明担当 佐久市

高速道路は、日本の経済を支える物流の要であり、人々の暮らしを支える生命線です。平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、壊滅的な被害により、鉄道や港湾施設が機能できない中、高速道路が早期に復旧したことにより、緊急輸送の基軸として多大な効果を発揮し、真に被災地の方々の生命線となりました。

この災害を教訓として、改めて災害に強い国土づくり、特に日本海と太平洋を結ぶネットワーク強化の必要性が認識されました。

中部横断自動車道は、東海地震等による重大な災害の発生が危惧される中で、広域的防災体制の強化に必要な緊急輸送路としての役割を担うばかりでなく、医療過疎地域への救急搬送手段の提供など多様な住民福祉を提供する機能も兼ね備える、沿線住民の生活にも密接した「命の道」であります。

また、中部横断自動車道は、静岡、山梨、長野、新潟の4県を結び、東名、新東名、中央、関越、北陸の5つの高速道路と接続し、「関東大環状連携軸」を形成する路線となり、物流体系の再編、交流圏の拡大、広域的観光ゾーンの形成などを促進し、交流人口の創出に大きく貢献する「真に必要な道路」であり、その整備効果は計り知れないものがあります。

高速道路はネットワーク化されてこそ、その効果を発揮するものであるにもかかわらず、中部横断自動車道には基本計画区間が残されており、真の効果を最大限に発揮するには、このミッシングリンクの解消が急務であります。

よって、国におかれましては、下記の措置を講じ、中部横断自動車道の早期全線整備がされるよう、強く要望します。

### 記

- 1 基本計画区間である八千穂インターチェンジ（仮称）ー山梨県長坂ジャンクション（仮称）間の早期整備計画区間への格上げ
- 2 佐久南インターチェンジー八千穂インターチェンジ（仮称）間の早期供用開始